

東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 医療保健学専攻
学位論文 要旨

病棟師長の看護管理者コンピテンシーを含む看護実践環境と
看護師のワーク・エンゲイジメントとの関連

東京医療保健大学大学院
医療保健学研究科 医療保健学専攻
博士課程
領域名 看護学
学籍番号 HD119002
氏名 小池洋子

背景 (Background)

今後、少子高齢化によりさらなる看護師不足が予測されるが、看護師養成には限度があるため未就業者の減少が必要である。就業継続とワーク・エンゲイジメント (WE) に関連があることが示されており、WE を高めることができれば未就業者が減少し、質の高い看護が提供できる可能性がある。病棟師長の看護管理者コンピテンシー (CP) を含む看護実践環境が WE に影響していることが予想される。看護師の WE と病棟師長の看護管理者 CP を含む看護実践環境との関連がわかれば、WE を高めるための方策を検討する際の資料となる。

目的 (Objective)

病床規模別・設置主体別・病棟種別にみた WE、看護実践環境、看護管理者 CP の実態とともに、看護師の個人特性、所属病院の特性を調整した上で、病棟に勤務する看護師が認識する病棟師長の看護管理者 CP を含む看護実践環境と看護師の WE との独立した関連を明らかにすることを目的とした。

方法 (Methods)

群馬県内の全病院の病棟看護師を対象として WEB 調査を実施した。調査内容は、WE (UWES-J 短縮版を一部改変)、看護実践環境 (自作)、看護管理者 CP (NACAS)、個人特性、所属病院の特性とした。WE は尺度構成を確認し、看護実践環境、看護管理者 CP は探索的因子分析を行い、尺度を作成し、それぞれの尺度得点を分析に用いた。分析は、記述統計を行い、病床規模・設置主体・病棟種別に WE 得点、看護実践環境下位尺度得点の平均値と看護管理者 CP 得点を比較した。2 群間の比較は t 検定、3 群間以上の比較は分散分析を行った。個人特性と所属病院の病床規模、設置主体、病棟種別を調整し、WE を従属変数、看護実践環境または看護管理者 CP を独立変数とした重回帰分析を行った。なお、統計処理には JMP16.2 を用い、統計学的有意水準は 5% 未満

とした。

結果 (Results)

28 病院の病棟看護師 637 件の回答のうち、606 名を分析対象とした。

看護実践環境の 4 下位尺度得点と看護管理者 CP 得点は、民間病院は国公立・公的病院より低く、地域包括・回復期リハ病棟は一般病棟より低く、看護実践環境の 2 下位尺度は 200 床未満が 200 床以上より低かった、WE 得点は所属病院の特性による違いはみられなかった。

重回帰分析の結果、看護実践環境の「看護実践の支援と適正な評価が得られる環境」「看護師が他職種と連携・協働できる環境」「人員配置が整っている環境」が整っていると WE が高かったが、「成長支援体制が整っている環境」との関連はみられなかった。看護管理者 CP と WE との間には有意な関連があり、看護管理者 CP が高いと WE も高かった。

結論 (Conclusions)

病棟師長の看護管理者 CP を向上することができれば、看護実践環境が整えられ、看護師の WE が向上する可能性があることが示された。

今後、病棟師長の看護管理者 CP の向上に向け、病棟師長に対する研修を実施する必要があり、小規模病院に向けての研修を地域で実施していくことが求められる。

キーワード (Key Words)

ワーク・エンゲイジメント、看護管理者コンピテンシー、看護実践環境、病棟師長